



2015年4月1日

各 位

会 社 名 株式会社トランスジェニック
代表者名 代表取締役社長 福永 健司
(コード番号 2342 東証マザーズ)
問合せ先 取 締 役 船 橋 泰
(電話番号 03-6693-9571)

新規モデルマウス3系統販売開始のお知らせ

株式会社トランスジェニック（代表取締役社長：福永健司、熊本県熊本市）は、このたび新規モデルマウス3系統を、2015年4月1日から販売開始いたしますのでお知らせいたします。

【概要】

当社は、創薬研究ツールとして汎用性の高いモデルマウスを提供すべく、大学研究機関との共同研究による開発、および外部研究機関からのライセンス導入を推進しております。

このたび販売を開始いたします新規モデルマウスは、炎症可視化マウス（IDOLマウス）、乳がんモデルマウス（カテプシン E ノックアウトマウス）、肥満抑制モデルマウス（Rmi1トラップマウス）の3系統です。

炎症可視化マウスは、当社が既に販売開始している病態可視化マウスのラインナップ拡充を目的として、群馬大学、熊本大学との共同研究により開発したマウスで、炎症因子であるIL-1 β タンパク質の発現制御を利用し、炎症を起こした組織を発光により可視化します。自己免疫疾患、がんなど様々な疾患に関わる炎症を生体で可視化することで、病態機序の解明や治療法の研究に貢献することが期待されます。

乳がんモデルマウスは、乳腺腫瘍を発症する病態モデルマウスで、九州大学名誉教授山本健二先生が開発され、当社がライセンス導入したものです。乳がん発症のメカニズムおよび治療法の研究に貢献することが可能です。

肥満抑制モデルマウスは、TG resource bank®の1系統として、可変型遺伝子トラップ法により樹立されたもので、体重減少および血糖値の低下を特徴としており、代謝系疾患の研究に提供可能で、トラップ法の有用な事例を示すものです。

なお、炎症可視化マウス、乳がんモデルマウスは全世界での実施許諾を受けております。

当社は、収益性が高いモデルマウスの拡充を積極的にすすめており、このたびのモデルマウス3系統販売開始は、先に公表しました「中期経営 Vision」に掲げました基本戦略におけるジェノミクス事業部門の成長ドライバーを推進するものです。

【内容】

1. 販売開始日：2015年4月1日

2. モデルマウス概要

モデルマウス名称	商品名	販売形態及び価格(税別)
Tg (GL4) 型炎症可視化マウス	IDOL 炎症可視化マウス	繁殖許諾権付1ペア ¥300,000- 個体販売 ¥75,000-/匹 ※可視化マウスについては、営利企業向けの価格設定がございます
カテプシンE遺伝子破壊乳がんモデルマウス	同左	
Rmi1遺伝子トラップ肥満抑制モデルマウス	同左	

3. 参考文献

Kawakubo *et al.* Repression of cathepsin E expression increases the risk of mammary carcinogenesis and links to poor prognosis in breast cancer. *Carcinogenesis* vol.35 no.3 pp.714-726 (2014)

Suwa *et al.*, RMI1 deficiency in mice protects from diet and genetic-induced obesity. *FEBS Journal* 277, 677-686 (2010).

◆ご参考：炎症

炎症は、創傷、微生物感染、自己免疫疾患などが原因として起こり、発赤、腫脹、発熱といった急性炎症の症状を呈します。慢性化した炎症は、老化、がん、動脈硬化、肥満、アルツハイマー病などの様々な病態と関わっていることが示唆されています。炎症箇所には、様々な炎症性細胞が浸潤し、炎症性因子を発現することが知られており、その代表的な因子としてIL-1 β があげられます。

乳がん

乳がんは、乳腺にできる悪性腫瘍で、乳管の細胞ががん化して発生します。日本における乳がん死亡数は13,000人で女性のがん死亡全体の9%です(2013年)。また、罹患数では、女性がん罹患数では全体の約23%を占めます。乳がんの治療法では、手術(外科治療)、放射線治療、薬物療法(内分泌療法、化学療法、分子標的治療など)があり、がんの性質や患者の状態により治療法が選択されています。

可変型遺伝子トラップ法

熊本大学生命資源研究・支援センター 教授 山村研一(当社技術統括担当取締役)らにより発明された、遺伝子改変マウスの効率的な作製方法であり、トラップベクターによりマウスES細胞に発現する遺伝子をランダムに完全破壊する方法です。従来のトラップ法に比べて、遺伝子の完全破壊が行えること、破壊した遺伝子の位置にヒト遺伝子や突然変異などを挿入可能であることが特徴であり、ヒト疾患モデル動物の開発や詳細な遺伝子機能解析に有用な手法です。

TG Resource Bank®

当社が保有する可変型遺伝子トラップ法を用いて作製した遺伝子破壊マウス約750系統のライブラリーです。

<http://www.transgenic.co.jp/products/database/tgrb/750list.php>

以上